

ドイツ・フュッセンから、オーストリア・インスブルック、ブレンナー峠を通過してイタリアに向うアルプス越えの道をバスで走った。観光地としてメジャーじゃないだろう、車窓を流れる景色の写真で綴った。

もう、オーストリア・チロル州に入ったのだろうか、次から次へと期待するアルプスの見所がバスの両側を過ぎ去って行く。

尾崎紀世彦〔ブルーシャトー〕の歌詞にある“森と湖に囲まれて～♪”の様な景色が現れた。自然一杯に囲まれた場所ではあるが住むには寂し過ぎる？！



一寸先も見えない濃霧が立ち込めていたが、一瞬にして消え去った。そしてまばらに人家が建つ山間の草原を、4両編成の電車が走って来た。何か、ほほえましい！



厚い雲の間に一瞬、荒々しいアルプスの峰が顔を出した。対照的に手前の平野には、穏やかな糸杉の並木が連なっていた。



山陰を出た途端、待ち望んでいた風景が広がった。緑の草原の中にポツリポツリと人家が佇む、喉かな牧歌的風景だ。この草原に寝そべってみたいくなりそう！



小さな町(村?)にでも、街を見下ろす崖上にはお城が建っている。今はホテルとして利用されている古城なのだろうか？



そして、可愛らしい尖がり帽子の教会が必ずと言っていい程に草原の一角にたたずむ。自然の恵み以外の楽しみは教会でのミサ位なのかと想像してしまう程の奥深い山の中だが。

